



鞆（ふいご）祭り
丸子警報器株式会社

☺☺☺☺ (HP 寄稿通算回数)

鞆（ふいご）は、昔の金属の精鉄や加工には欠くことのできない火をおこすための道具です。旧暦の11月8日には、全国的に、鍛冶屋、刀工、鋳物師などが仕事を休んで稲荷神社に詣で、「鞆（ふいご）祭り」を行いました。俳句では「鞆（ふいご）祭り」は冬の季語でもあります。

当社におきまして、創業時から、この鞆（ふいご）を扱っていたのが、現在の製造部や生産技術部で製造技術を担当する技術者達です。職人氣質の社員も多く、金型・治具・生産設備の製作等に幅広く携わり、丸子警報器(株)の「物づくり」を支えて参りました。

それゆえに、当社におきましては、「鞆（ふいご）祭り」を、火の神に感謝し、防火および作業の安全を祈願する祭事として引き継いで参りました。旧暦では無く新暦の11月8日に、毎年お祭りを実施して参りました。

鞆（ふいご）祭りには、その年に選ばれた社員が「鏡」（形は剣先で中央に鏡を配置）を作成し、神に奉納する事で、神のご加護に感謝の意を捧げます。

現在までに奉納された「鏡」は60以上にのぼっています。

また、祭事が終わった後は、全社員に対して、焼き鳥・おでんの屋台を出し、社員全員でお祭りを楽しんでいます。



【鞆】



【鏡】



【神事風景】